

# 第九回 八戸市遺跡調査報告会



林ノ前遺跡 発掘調査作業員集合

## 展示遺跡

### ● 石手洗遺跡

八戸市大字石手洗  
縄文

## 展示・報告遺跡

### ● 一王寺(1)遺跡・堀田遺跡

八戸市大字是川 縄文

横山 寛剛  
是川縄文館開館準備室

### ● 林ノ前遺跡

八戸市大字尻内町 平安

宇部 則保  
是川縄文館開館準備室

### ● 八戸城跡

八戸市内丸 近世

船場 昌子  
是川縄文館開館準備室

### ● 市子林遺跡

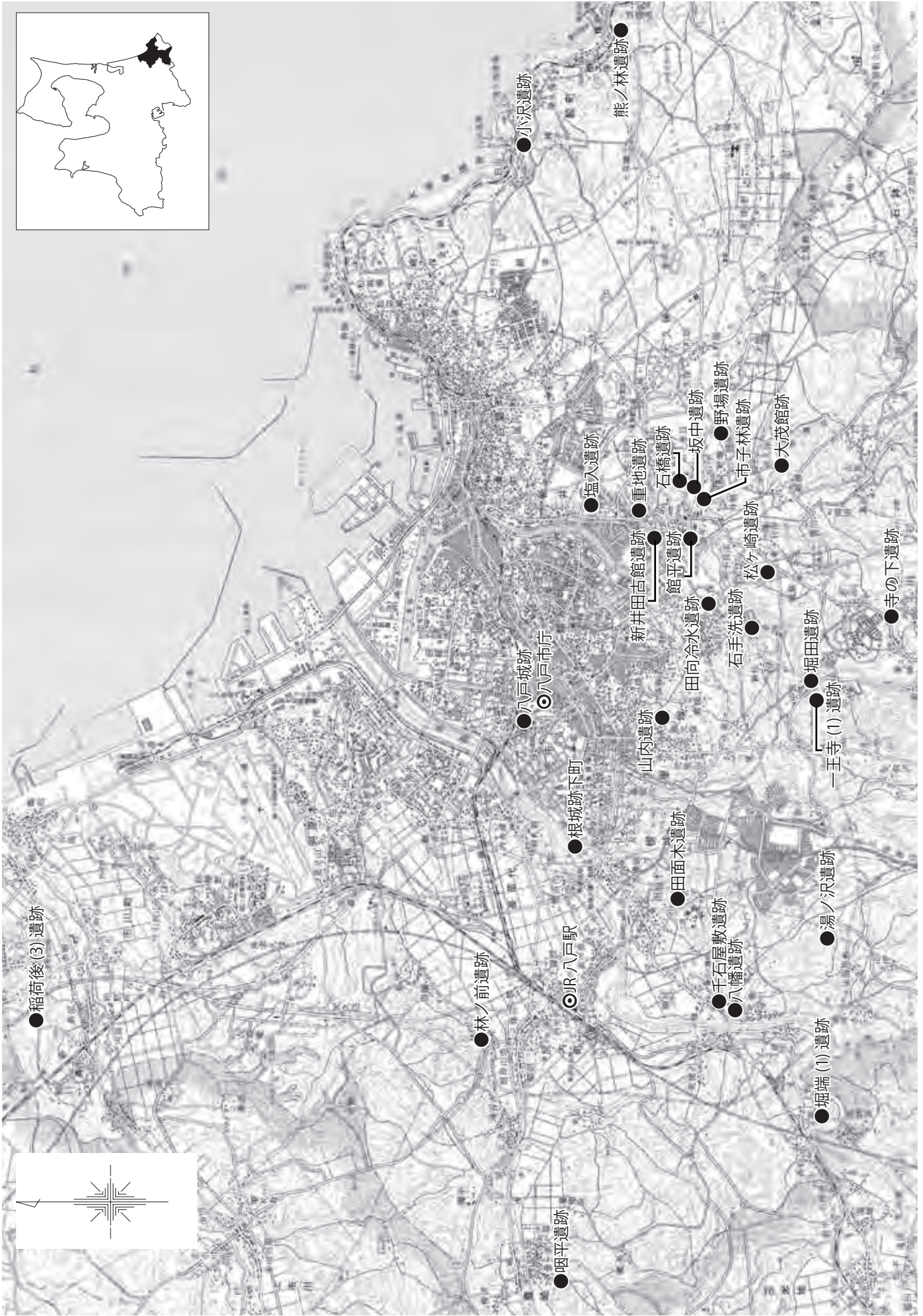
八戸市大字妙 近世

中村 哲也  
青森県埋蔵文化財調査センター

2010年11月13日(土)

主催：八戸市教育委員会（是川縄文館開館準備室）

於：是川縄文館



平成 22 年度 調査遺跡分布図 (1/80,000)

遺跡名	時代・種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺物	遺構
1 石橋遺跡①	平安・集落跡	八戸市大字新井田所在	宅地造成	140㎡	4月27日～4月28日	×	×
2 石橋遺跡②			集合住宅建設	20㎡	4月27日	×	×
3 市子林遺跡①	奈良・集落跡	八戸市大字新井田所在	個人住宅建設	23㎡	4月26日	×	×
4 市子林遺跡②			宅地造成	110㎡	8月2日～8月3日	○	×
5 稲荷後(3)遺跡	縄文・散布地	八戸市大字市川町所在	農業用倉庫建設	13㎡	4月16日	×	×
6 大茂館跡隣接地	中世・城館跡	八戸市大字妙所在	道路舗装工事	3.5㎡	6月18日	×	×
7 熊ノ林遺跡	縄文・散布地	八戸市大字鯨町所在	個人住宅建設	19.5㎡	6月23日～6月24日	○	×
8 小沢遺跡隣接地	縄文・散布地	八戸市大字鯨町所在	個人住宅建設	8.5㎡	6月9日	×	×
9 坂中遺跡	平安・散布地	八戸市大字妙所在	個人住宅建設	21㎡	8月18日	×	×
10 塩入遺跡	平安・散布地	八戸市大字新井田所在	駐車場建設	32.4㎡	7月20日～7月21日	×	×
11 館平遺跡①	縄文・集落跡	八戸市大字新井田所在	個人住宅増築	7㎡	4月15日	○	×
12 館平遺跡②			個人住宅建設	1㎡	5月21日	×	×
13 田向冷水遺跡	古墳・集落跡	八戸市大字田向所在	土地区画整理	1,084㎡	4月27日～4月28日	×	×
14 田面木遺跡①	古代・集落跡	八戸市大字田面木所在	個人住宅建設	33.1㎡	9月3日	○	×
15 田面木遺跡②			個人住宅建設	13㎡	9月29日	×	×
16 寺の上遺跡	縄文・散布地	八戸市大字是川所在	携帯電話鉄塔建設	12.75㎡	9月29日	×	×
17 新井田古館遺跡①	中世・城館跡	八戸市大字新井田所在	個人住宅建設	4㎡	4月19日	×	×
18 根城跡下町	中世・城館跡	八戸市大字根城所在	個人住宅建設	35㎡	4月22日	×	×
19 咽平遺跡①	縄文・散布地	八戸市大字豊崎町所在	切上造成及び乾燥機小屋建設	32㎡	4月19日	○	×
20 咽平遺跡②			個人住宅建設	14.3㎡	4月20日	×	×
21 野場遺跡隣接地	縄文・散布地	八戸市大字妙所在	宅地分譲	25㎡	6月10日	×	×
22 八戸城跡①	近世・城館跡	八戸市内丸一丁目所在	個人住宅建設	13.6㎡	4月23日	×	×
23 堀田遺跡隣接地	縄文・集落跡	八戸市大字是川所在	個人住宅建設	8.6㎡	10月1日	×	×
24 堀端(1)遺跡隣接地	平安・集落跡	八戸市大字上野所在	個人住宅建設	13.5㎡	5月14日	×	×
25 松ヶ崎遺跡	縄文・集落跡	八戸市大字十日市所在	個人住宅建設	11.75㎡	5月11日	×	×
26 山内遺跡	縄文・散布地	八戸市大字糠塚所在	個人住宅建設	30㎡	6月14日	×	○
1 一王寺(1)遺跡①	縄文・集落跡	八戸市大字是川所在	一王寺(1)遺跡整備	133㎡	5月17日～6月7日	○	×
2 一王寺(1)遺跡②			一王寺(1)遺跡整備	61㎡	7月8日～7月14日	×	×
3 一王寺(1)遺跡③			一王寺(1)遺跡整備	290㎡	8月27日～9月10日	○	○
4 堀田遺跡	縄文・集落跡	八戸市大字是川所在	堀田遺跡整備	290㎡	8月23日～9月9日	○	○
1 石手洗遺跡	縄文・集落跡	八戸市大字石手洗所在	個人住宅建設	75㎡	9月1日～9月17日	○	○
2 重地遺跡	縄文・集落跡	八戸市大字新井田所在	下水道整備工事	80㎡	9月21日～9月28日	○	○
3 千石屋敷遺跡	中世・集落跡	八戸市大字八幡所在	店舗併用住宅及び住宅用物置建設	243㎡	4月5日～7月8日	○	○
4 新井田古館遺跡②	中世・城館跡	八戸市大字新井田所在	下水道整備工事	244㎡	10月1日～10月20日	○	○
5 八戸城跡②	近世・城館跡	八戸市内丸所在	アパルト建設	450㎡	5月6日～6月15日	○	○
6 八幡遺跡	縄文・散布地	八戸市大字八幡所在	八幡小学校耐震補強工事	24㎡	7月22日～8月9日	○	○
7 林ノ前遺跡	平安・集落跡	八戸市大字尻内町所在	自然崩壊	666㎡	6月7日～9月22日	○	○
8 湯ノ沢遺跡	縄文・集落跡	八戸市大字櫛引所在	八戸市最終処分場建設	70.6㎡	4月20日～6月25日	○	○

試掘調査

確認調査

本調査

# 一王寺(1)遺跡・堀田遺跡

## 1. 遺跡の概要

一王寺(1)遺跡と堀田遺跡は、中居遺跡と合わせて史跡是川石器時代遺跡と総称され、遺跡全体の面積は約33万6千㎡に及びます。今年度は、一王寺(1)遺跡、堀田遺跡について範囲・内容の確認調査を行ないました。今回の報告では、昨年度の一王寺(1)遺跡の調査成果についても合わせて紹介します。

## 2. 一王寺(1)遺跡の概要と調査成果

一王寺(1)遺跡は、新井田川の段丘左岸の標高10～20mの台地と、標高70～100mの丘陵からなり、総面積は約28万6千㎡です。遺跡の現状は畑地・宅地・墓地と山林で、台地は東側に流れる新井田川に向かう緩やかな傾斜面となっています。一王寺(1)遺跡では、これまで13地点の範囲・内容の確認調査や墓地造成、是川縄文館建設に伴う発掘調査が行なわれ、縄文時代の集落の様子が次第に明らかになってきています。

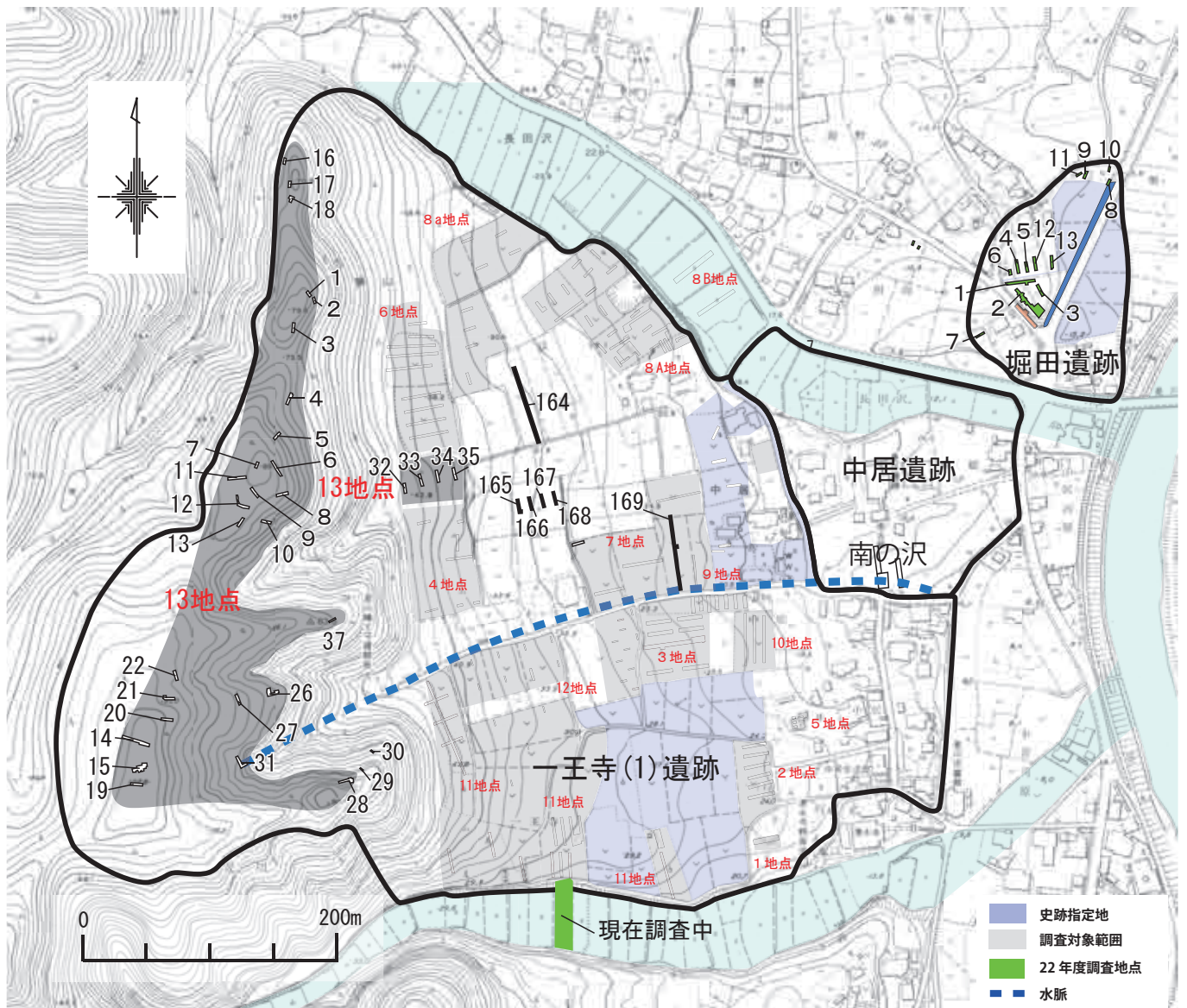
平成21年度は、一王寺(1)遺跡の西側に隣接する山林を約560㎡調査しました。その結果、山林の北端まで縄文土器が散布することがわかりました(16-18)。また山林の南側では、縄文時代中期の終わりから後期初め頃の住居と縄文時代晩期の住居跡(15,26)、後期中葉の配石遺跡(28)が見つかり、山林が狩猟や採集などの生業だけの場でなく、居住域でもあったことがわかりました。山林からは是川遺跡記念碑へ降る谷地に設定した31トレンチでは埋没した沢地にあたり、土層の観察からこの沢が埋没したのは縄文時代晩期以降であることがわかりました。またこの沢は地形から見て、遺跡を横断して流れていた可能性が高いことが予想されました。

今年度は、前年度の調査成果をうけ、一王寺(1)遺跡を流れる水脈を確認するため、164から169の6トレンチを設定しました。その結果、169トレンチで自然の沢地形が確認され、一王寺(1)遺跡を横断し、中居遺跡に抜ける沢の存在を推定することができました。この沢は、中居遺跡の特殊泥炭層を有する「南の沢」と一連のものであったと考えられます。

## 3. 堀田遺跡の概要と調査成果

堀田遺跡は、新井田川左岸の標高10～25mの低位段丘上に立地し、南から北へ向かう傾斜面となっています。遺跡の面積は約1万8千㎡です。現状は畑地・宅地で、遺跡中央を県道島守-八戸線が通っています。昭和47(1972)年の市道改良工事に伴う調査と、昭和55(1980)年の県道歩道整備に伴う調査を八戸市教育委員会が行い、縄文時代中期の竪穴住居跡1棟、集石遺構2基、土坑と縄文晩期の遺物包含層が検出されました。

今年度の調査は遺跡の範囲を確認するため、遺跡の北側と南側に5ヶ所のトレンチを設定しました(7-11)。また遺跡中央にどういった遺構・遺物が埋蔵されているのかを確認するため、13ヶ所のトレンチを設定しました(1-6,12,13)。調査面積の合計は約290㎡です。調査の結果、遺跡中央から縄文時代中期の終わり頃から後期の初め頃の土器を伴う、23基の土坑が検出されました。昭和55年の調査の土坑も、一連のものであったと考えられます。(横山 寛剛)



一王寺(1)・堀田・中居遺跡全体図



堀田遺跡発掘調査  
多数の土坑が検出された。

# 林ノ前遺跡

## 1. 遺跡の概要

林ノ前遺跡は、八戸市北西部の尻内町熊ノ沢地区にある平安時代を中心とした集落跡です。浅水川左岸の標高 20～40m の舌状台地に位置しています。遺跡は北側に熊ノ沢と呼ばれる沢が入り込み、南側は眼下に水田地帯が広がる眺望の開けた場所に立地しています。平成 13 年から八戸市教育委員会が発掘調査を行ってきており、平成 12～15 年には県道改修事業に伴い青森県埋蔵文化財調査センターによる大規模な発掘調査も行われました。

遺跡の特徴は、台地の高いところを堀が巡り、その中の狭い平坦面と、外側の北に面した斜面に多数の竪穴住居や円形の土坑がつけられていることです。鍛冶関連遺構や銅、銀、金が付着した埴塙が認められており、鉄や非鉄金属の製作が行われていたこと、また、幼齢のウマ・ウシの骨からそれらを飼育していたこともわかっています。さらに、竪穴住居から手足を縛られた状態とみられる人骨の出土も出土しています。

集落の営まれた時期は、10 世紀中葉～11 世紀前半にかけての集落と考えられます。

## 2. 今年度の調査成果

発掘調査は、遺跡東端に近い場所で行いました。調査の結果、北斜面と台地頂部の平坦面から、堀跡 2 条、溝 1 条、竪穴住居跡 27 棟、土坑 80 基などを検出しています。

堀跡 2 条は、頂部平坦面から斜面に沿って並行して巡ります。深さ 1.1m 前後のものですが、最初の堀を内側へ作り替え、幅は 1.8m から 2.7m 程に拡大されています。竪穴住居跡、土坑は平坦面から斜面にかけて何回も作り変えられ、廃棄するときには人為的に埋め戻されています。堀跡により壊されているものが多いのですが、堀跡より新しい時期の竪穴住居 (SI108) もあります。

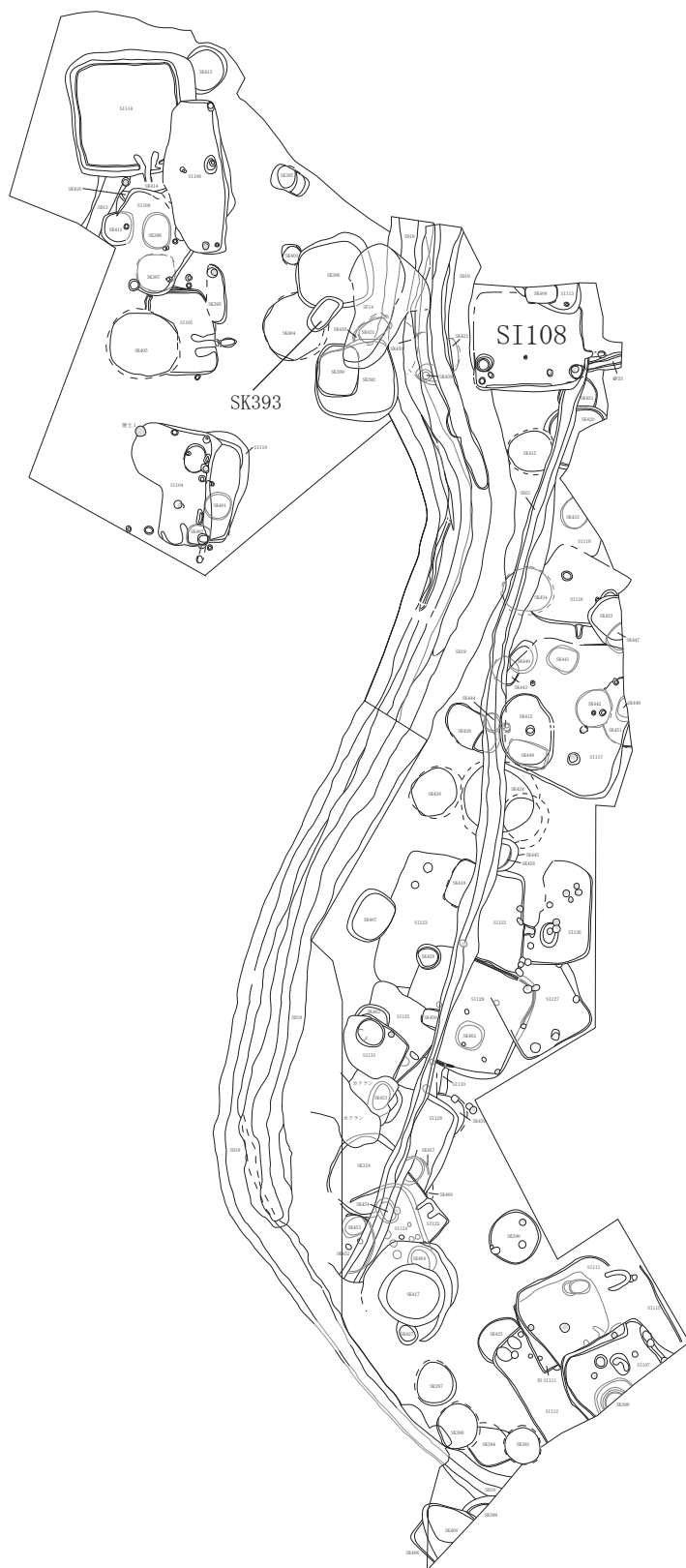
竪穴住居は方形で、南側や東側にカマドがつけられています。土坑の大半は円形で、直径 2m 前後から大きいものでは 4m 近いものまであります。

出土遺物は、縄文土器・石器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品・獣骨で、鉄製品は、鉄鏃・刀子・錫杖<sup>しやくじょう</sup>状鉄製品等があります。斜面地の土坑 (SK393) からは幼齢のウシの頭部の骨が見つかりました。

青森県埋蔵文化財調査センターと八戸市教育委員会の調査を合わせた平成 22 年度までの遺構数は、竪穴住居跡 (竪穴遺構含む) 228 棟 (市 125 棟)、掘立建物跡 3 棟 (市 0)、土坑 713 基 (市 427 基)、堀跡 5 条 (市 2 条)、鍛冶関連遺構 9 基 (市 3 基) 等にのびります。

今後、平坦面の調査を進め、堀跡の性格や、その内側と外側で場の利用の仕方に違いがあるかなど、検討していきたいと考えています。(宇部 則保)

調査目的	自然崩壊に伴う緊急発掘調査
調査期間	6月10日～9月22日
調査面積	約 600 m <sup>2</sup>
検出遺構	竪穴住居跡・竪穴遺構・土坑・堀・溝など
出土遺物	土師器・須恵器・鉄製品・土製品・銅製品・石製品・縄文土器・石器



平成 22 年度発掘調査遺構配地図

# 八戸城跡

## 1. 遺跡の概要

八戸城跡は、八戸市内丸に位置する江戸時代の城跡を中心とする遺跡です。これまでの調査によって、縄文時代・弥生時代・古代・江戸時代の遺構・遺物が検出されています。

八戸城は、現在の三八城神社・三八城公園・八戸市公会堂にあたる本丸と、八戸市庁・南部会館・おがみ神社等が位置する二の丸から構成されています。寛永6年（1629）、盛岡藩の代官所として築城されたと伝えられ、寛文4年（1664）に八戸藩が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められました。その後、明治4年（1871）の廃藩置県によって廃城となり、取り壊されるまで、八戸藩二万石の居城として使用されました。

二の丸は、法霊社（おがみ神社）・八幡宮・豊山寺<sup>ぶざん</sup>といった社寺のほか、一族・重臣の屋敷地となっていました。

## 2. 主な遺構

今回の調査地点は、二の丸の東側にあたる25・26地点の2箇所です。26地点は現在のおがみ神社に隣接しています。調査面積は25地点が約150㎡、26地点が約250㎡で、中世～近世とみられる柱穴・土坑・土坑墓・不明切土遺構のほか、縄文時代の溝状土坑を検出しました。

① 25地点 現在の地表面から1～1.7mの盛土下で、遺構を検出しました。調査区北東は、約2.5m以上深く掘りこまれていました。掘りこみの底まで確認できなかったため、この遺構が切土なのか、または堀のような遺構かはっきりわかりませんが、埋土には江戸時代～明治時代の陶磁器が入りこんでいたため、江戸時代かそれ以前の遺構と考えられます。このほか、戦後に埋められた地下室のあとも見つかっています。

② 26地点 調査区全体に多数の柱穴が見つかり、柱穴の間尺などを検討した結果、3棟の建物跡を推定しました。建物の北側は地形が急激に傾斜し、低くなっているため、これらの建物は南東に面した建物と考えられます。遺物が出土していないため、建物の年代はよくわかりません。建物跡のほか、土坑墓や焼土遺構、大規模な不明遺構が検出されており、江戸時代ごろの遺構とみられます。また、縄文時代の土坑・溝状土坑も見つかりました。

## 3. 主な遺物

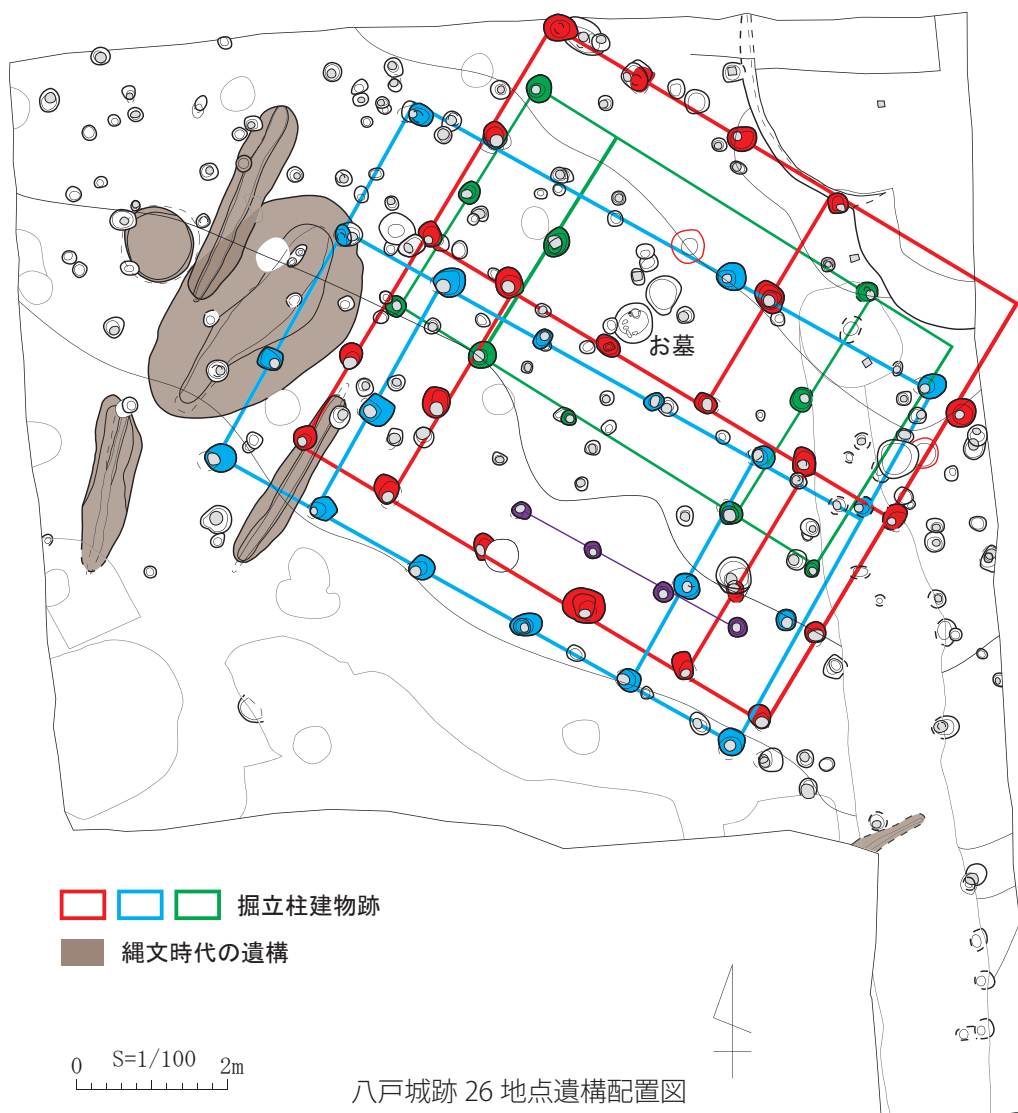
遺物は、陶磁器・金属製品・貝等が出土しました。陶磁器は江戸時代から明治以降のものまでみつかっており、ほとんどが調査区北東隅の不明遺構から出土しました。江戸時代後半の瀬戸や唐津（肥前）の碗・皿・鉢・灯明具等のほか、八戸藩領内でつくられた小久慈焼の皿・鉢も見つかっており、大半は日常的に用いられた道具類です。磁器の茶碗類は、壊れたものを修理した痕跡がみられました。陶磁器以外には銭貨・砥石などが出土しました。

## 4. まとめ

調査した2地点がどういう場所だったのか、二の丸の様子が描かれた絵図でみると、25地点は東側を占める大規模な屋敷地の一部となっています。26地点はおがみ神社に隣接する山林として記されているものと、道を挟んだ向側に屋敷を構える逸見家の管理地として記されているものがありました。残念ながらこれらの屋敷地の中の様子は、よくわかりません。

26地点で検出した建物跡は、現在も残っている道とは正面の方角がずれているため、八戸城の時期の建物かどうかという点も含め、これから検討を進めていく予定です。（船場 昌子）





# 市子林遺跡

## 1. 遺跡の概要

市子林遺跡は八戸市新井田地区に所在し、新井田川右岸の河岸段丘上に所在します。市子林遺跡はこれまでに八戸市教育委員会によって17地点の調査が行われ、縄文時代、続縄文（弥生）時代、古代、中世、近世各時期の遺構が検出されています。今年度は県道差波新井田線地方道路交付金事業に伴って発掘調査が実施され、奈良・平安時代の集落の一部と、近世の墓域が検出されました。ここでは近世墓について紹介します。

## 2. 今年度の調査成果

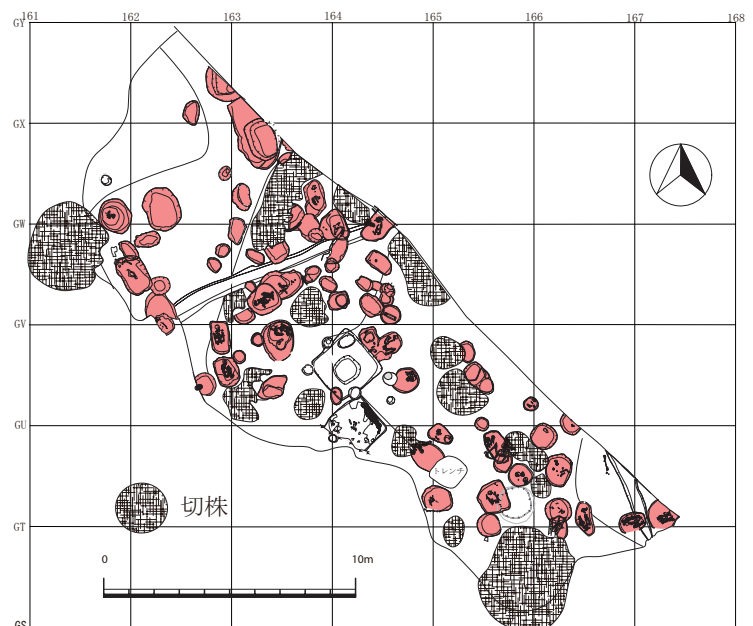
近世の墓域は約260㎡の面積を調査し、85基の土坑、2条の溝跡を検出しました。そのほかに縄文時代の土坑が1基検出されました。土坑85基中、明らかに墓とは考えられないものが9基あり、それ以外は人骨・その他の遺物ともに出土しなかったものも含めて墓の可能性を考えています。

遺存した人骨から、埋葬姿勢は側臥屈葬・仰臥屈葬・座葬があったことがわかりました。それぞれの埋葬姿勢は墓坑の形態と密接に関連するようです。それが何を表すのかは検討課題ですが、江戸やその近辺の調査例では、年代差を示すものと考えられています。

墓坑から出土した遺物は、磁器、煙管、銭貨、釘、板、不明鉄製品、不明金属製品、土人形、漆?製品があります。板と釘は棺の存在を示すものと考えられます。最も多くの墓坑から出土したのは銭貨、次いで煙管、その他はそれぞれ1～2例だけです。年代を決める有力な手がかりは銭貨と陶磁器です。銭貨は遺構内外で約300枚出土しました。現時点で判読できた限りでは寛永通宝が最も多く約半数をしめ、銅製の一文銭に限られます。遺跡の下限は、鉄製や真鍮製の寛永通宝の鑄造年代を除外して考えることができるので、新しくても18世紀の前葉と考えられます。2点の磁器の製造年代は1630年代～1680年代、1650年代～1700年代で、銭貨の示す年代と矛盾しません。ただし、2点しか出土していないので、遺跡の期間すべてを表すものとはいえません。寛永通宝以前の渡来銭・模鑄銭が出土銭貨の約半数ないしそれ以上を占めています。青森県内の遺跡の事例からは16世紀後葉～17世紀初頭には渡来銭・模鑄銭の組み合わせが銭貨の基本的な流通形態だったと考えられています。

市子林遺跡の周辺には新田城跡（館平遺跡）、新井田古館遺跡といった中世から近世の八戸の歴史を考える上で重要な遺跡が存在しています。市子林遺跡の近世墓は少なくとも新田城が機能した時期には存在した可能性が高く、八戸の歴史を考える上で興味深い遺跡であるといえます。

（中村哲也）



市子林遺跡近世墓 遺構配置図 (S=1/300)

西暦	元号	為政者	日本史の出来事	八戸付近の主な出来事	銭貨	磁器
1492	長享 文龜	足利吉澄	長享2年(1488) 加賀一向一揆 頃～天正8(1580)	永享年間(1429～1441)頃新田 氏古館に入部？		
1504	永正	足利義植	1508(永正5) 1521(大永元)			
1528	享祿	足利義晴	1543(天文12) 鉄砲伝来			
1532	天文		1553年(天文22) 川中島の戦い ～1564年(永祿7) 1546(天文15)			
1555	弘治	足利義輝	1560年(永祿3) 1565(永祿8)			
1558	永祿	足利義栄	桶狭間の戦い			
1570	元龜	足利義昭	1573(天正元) 室町幕府滅亡。			
1573		織田信長	1582年(天正10) 本能寺の変			
	天正		1585(天正13) 豊臣秀吉關白に 1590(天正18) 奥州仕置 1591(天正19) 九戸真実の乱 1592(天正20)	新田政盛 新田城に居住？ 根城破却		
1592	文祿	豊臣秀吉				
1596	文祿		1598(慶長3) 豊臣秀吉 没 1600(慶長5) 關ヶ原の戦い 1603(慶長8) 江戸幕府成立			
1603	慶長	徳川家康	1605	新田政景 新田城に居住？		
1615	元和	徳川秀忠	1614(慶長15)～ 1615(元和元)			
1624	寛永	徳川家光	1623(元和8) 1627(寛永4)	根城南部氏、遠野へ移り、八戸 は盛岡藩直轄領となる 新田城廃城となる		
	西暦	元号	為政者	日本史の出来事	銭貨	磁器
	1630	寛永7				
	1636	寛永13	徳川家光	1636(寛永13) 頃 寛永の大飢饉 1642(寛永19)	古寛永	
	1642	寛永19				
	1651	承心				
	1655	明暦		1657(明暦3) 明暦の大火		
	1658	万治	徳川家綱			
	1661					
	1664	寛文		1664(寛文4) 1668(寛文8)	第2期新 寛永	
	1673	延宝		1680		
	1681	天和				
	1684	貞享		1687(貞享4) 生類憐れみの令		
	1688	元禄	徳川綱吉	1697(元禄10) 元禄赤穂事件	第3期新 寛永	
	1704	宝永		1701(元禄14)		
	1711	正徳	徳川家宣	1709		
	1712		徳川家継	1712		
	1716	享保		1716		
	1736	元文				
	1741	寛保	徳川吉宗	1739(元文4)	鉄一文銭	
	1744	延享				
	1748	寛延	徳川家重	1745		
	1751	宝暦				
	1764	明和				
	1772	安永		1772(明和9) 1772(安永元)		
	1781	天明	徳川家治	田沼意次、老中に 1783(天明3)～ 1788(天明8) 1786(天明6)	秋葉様勸請	
	1789	寛政	徳川家斉	田沼意次、罷免さ れる		

#### 報告会次第

- 13 : 00 開場・受付開始
- 13 : 30 開会挨拶
- 13 : 35 22年度調査概要
- 13 : 45 調査成果報告 一王寺(1)遺跡・堀田遺跡
- 14 : 05 調査成果報告 林ノ前遺跡
- 14 : 25 10分休憩
- 14 : 35 調査成果報告 八戸城跡
- 14 : 55 調査成果報告 市子林遺跡
- 15 : 15 質疑応答
- 15 : 30 閉会挨拶
- 15 : 35 閉場
- 15 : 45 是川縄文館見学会